

3・11後の健康不安を 語りやすくするために必要なこと

—関東における甲状腺検査の意義と課題—

「すべての子どもの健康を守りたい」。3・11後の子育てから生まれてきた言葉を市民と自治体の協力により具体化する動きが続いています。本学の教育実践研究支援センター（旧センター）では、市民による甲状腺検査と自治体による甲状腺検査助成を実現してきた松戸市と我孫子市の保護者のとりくみについて学び（2017年度）、関東子ども健康調査支援基金との共催による甲状腺検査を行ってきました（2018年度）。この検査にボランティアとして参加した学生と市民から、「3・11後の健康不安を語りやすくするために必要なことを知りたい」との要望が寄せられたことをふまえ、旧センターの事業を引きついで特別支援教育・教育臨床サポートセンターでは標記の会を開催します。

2019年 **7月25日（木）** 14:30～16:00
[14:20開場]

東京学芸大学

JR「武蔵小金井」北口より小平団地行きバス「学芸大正門前」

W302教室（定員70人）

参加費無料 事前申込不要 立見有



講師

しみず ななこ
清水 奈名子さん

宇都宮大学国際学部准教授。国際関係論、国際機構論。東京電力福島第一原子力発電所事故後に被害者の調査に取り組む。著書『冷戦後の国連安全保障体制と文民の保護 多主体間主義による規範的秩序の模索』日本経済評論社 2011年など。